

関係各位

大阪府環境農林水産部農政室長

病害虫発生予察情報について

標記について下記のとおり発表したので送付します。

病害虫発生予察注意報第6号

- 病害虫名 シロイチモジヨトウ
- 対象作物 キャベツなどのあぶらな科野菜、ねぎ類、しゅんぎく、花き類など
- 発生地域 府内全域
- 発生量 多い
- 注意報発令の根拠
 - 9月下旬におけるキャベツの巡回調査の結果、被害株率、発生頭数ともに平年値を大きく上回った（表1）。また、ねぎでも発生が見られた。
 - 9月上旬のフェロモントラップ誘殺頭数が平年に比べて多い傾向で推移している地点が多数見られた（表2、図1）。
 - 大阪管区気象台の近畿地方1か月予報（9月19日発表）では、向こう1か月の気温は平年より高い確率が80%となっており、今後も多発傾向が続く可能性が高い。

表1 泉佐野市での巡回調査におけるシロイチモジヨトウの発生頭数及び被害株率

品目	項目	本年	平年値	平年値との比較
キャベツ	被害株率（%）	24	4.6	5.2倍
	発生頭数（頭/葉）	0.8	0.1	8倍

表2 9月上旬のフェロモントラップ調査におけるシロイチモジヨトウの誘殺頭数

設置地点	本年 （頭数）	平年値 （頭数）	平年値との 比較
羽曳野市	99	40	2.5倍
枚方市	41	11	3.7倍
堺市	124	85	1.5倍
泉佐野市	113	49	2.3倍

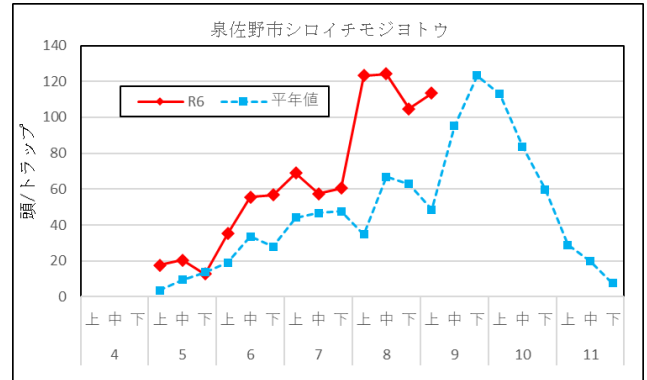
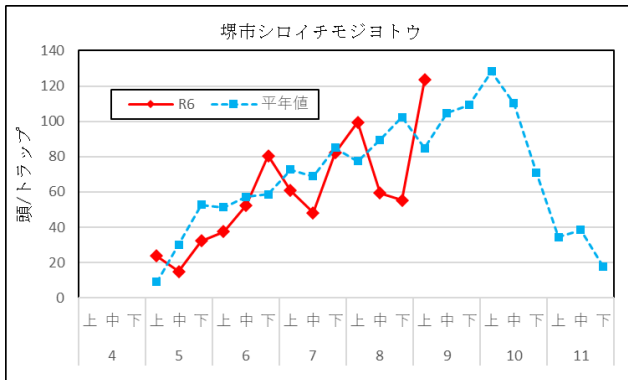
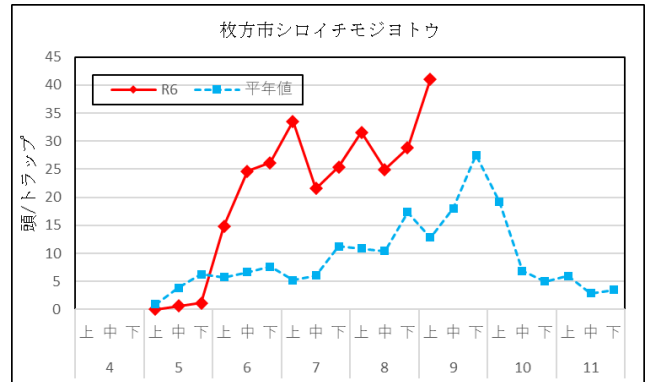
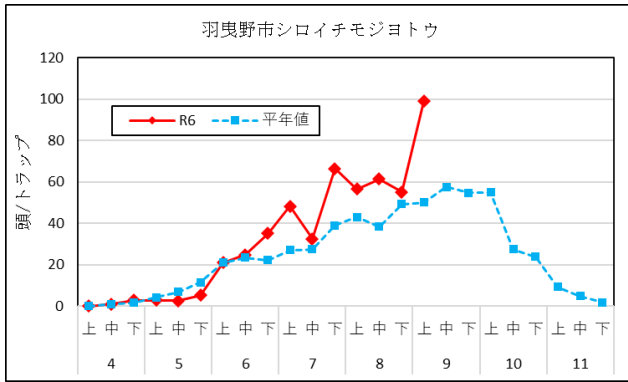


図1 フェロモントラップ調査におけるシロイチモジヨトウの誘殺頭数の推移
(羽曳野市、枚方市、堺市、泉佐野市)

6 生態

- (1) 卵は直径約 0.4mm の球形で、数十～数百個程度が一つの塊となっており、黄白色～灰白色の毛におおわれる (写真1)。
- (2) 卵からかえった幼虫 (写真2) は、しばらく集団で葉を食害し、成長すると分散して単独で加害する。
- (3) 幼虫の体色は、若齢では淡緑色、中齢以降になると淡緑色、緑褐色、暗褐色と変異に富む。
- (4) 若齢、中齢幼虫の体長は約 10～20mm、老齢幼虫 (写真3) は体長約 30mm である。
- (5) 幼虫は 5 齢を経て土中で蛹になり、気温 25℃では 9 日ほどで羽化する。
- (6) 成虫は体長約 12mm、翅開張時は約 30mm である。前翅は灰褐色で、黄褐色の環状紋がある。夜間に活動し、長距離移動する。昼間は葉裏や雑草地に潜む。



写真1 鱗毛で覆われた卵塊
(地独) 大阪府立環境農林水産
総合研究所提供



写真2 集団をなす若齢幼虫



写真3 単独で食害する
老齢幼虫



写真4 環状紋のある成虫

※参考: カラー技術資料「シロイチモジヨトウ生態と防除対策」

<https://www.pref.osaka.lg.jp/documents/84527/shiroichi-osaka.pdf>



7 防除対策

○基本的な防除

- (1) ほ場の見回りをこまめに行い、卵塊や分散前の幼虫は、見つけしだい葉ごと取り除く。また、ねぎでは、幼虫が葉身内に食入している場合があるので、注意して観察する。

○侵入・産卵防止

- (1) 施設栽培では、開口部を4mm目合いのネットで被覆する。
 (2) 露地栽培では、4mm目合いのネット等でべたがけ、トンネルがけを行う。

○薬剤防除

- (1) 老齢幼虫になると薬剤の感受性は大幅に低下するので、中齢幼虫までに防除することが望ましい。
 (2) 本種は近年、近隣府県で、薬剤に対する抵抗性が発達し問題になっている。今後の薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統薬剤の連用を避ける（系統については別添防除薬剤例、病害虫防除指針などを参照）。

＜別添＞ シロイチモジヨトウの防除薬剤例

作物	薬剤名	系統(IRAC)	希釈倍数(倍)	使用時期	使用回数
キャベツ	コテツフロアブル	ピロール系(13)	2000	収穫前日	2回以内
	スピノエース顆粒水和剤	スピノシン系(5)	2500~5000	収穫3日前	3回以内
	プレオフロアブル	ピリダリル(UN)	1000	収穫7日前	2回以内
	グレーシア乳剤	イソオキサゾリン系(30)	2000~3000	収穫7日前	2回以内

作物	薬剤名	系統(IRAC)	希釈倍数(倍)	使用時期	使用回数
ねぎ	プレオフロアブル	ピリダリル(UN)	1000	収穫3日前	4回以内
	グレーシア乳剤	イソオキサゾリン系(30)	2000~3000	収穫7日前	2回以内
	コテツフロアブル	ピロール系(13)	2000	収穫7日前	2回以内
	ディアナ SC	スピノシン系(5)	2500~5000	収穫前日	2回以内

作物	薬剤名	系統(IRAC)	希釈倍数(倍)	使用時期	使用回数
しゅんぎく	アフーム乳剤※	アベルメクチン系(6)	2000	収穫7日前	2回以内

※アフーム乳剤については、府内一部地域で感受性の低い個体群が確認されたので注意する。

作物	薬剤名	系統(IRAC)	希釈倍数(倍)	使用時期	使用回数
野菜類	デルフィン顆粒水和剤	BT(11A)	1000	発生初期 (収穫前日)	-
	ゼンターリ顆粒水和剤 (除キャベツ、はくさい)				

作物	薬剤名	系統(IRAC)	希釈倍数(倍)	使用時期	使用回数
花き類・ 観葉植物	アフーム乳剤※ (ヨトウムシ類)	アベルメクチン系 (6)	1000	発生初期	5回以内
	コテツフロアブル (ヨトウムシ類(除きく、ストック))	ピロール系(13)	2000	発生初期	2回以内

※アフーム乳剤については、府内一部地域で感受性の低い個体群が確認されたので注意する。

- ・登録は令和6年9月18日現在
- ・最新情報は農林水産省「農薬登録情報提供システム」で確認してください。
(<https://pesticide.maff.go.jp/>)
- ・これら以外の剤については、Web版大阪府病害虫防除指針も参照してください。
(https://www.pref.osaka.lg.jp/o120090/nosei/byogaicyu/boujo_shishin.html)